

令和6年度 第2回 大阪公立大学医学部附属病院長候補者選考会議 議事録

日 時： 令和6年8月29日(木) 15時00分～15時20分

場 所： 大阪公立大学医学部学舎1階応接室

出席委員： 鶴田大輔 医学研究科長、角俊幸 医学部附属病院副院長、
南條幸美 医学部附属病院副院長兼看護部長、東山潔 理事、
池田博之 経営審議会委員
勝間田敬弘 大阪医科薬科大学病院病院長(リモート)
中尾正俊 大阪府医師会会長

議 事：

事務局 「それでは皆様お揃いですので、ただいまから2024年度第2回大阪公立大学医学部附属病院長候補者選考会議を開始いたします。では中尾議長、お願いいたします。」

議長 「皆様、大変お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。公平・公正な病院長選考をお願いしたいと思います。このまま進めてもよろしいでしょうか。」

事務局 「はい、お願いいたします。」

1. 書類選考（資格等の確認）

議長 「議題1、書類選考についてです。8月13日17時に推薦が締め切られました。推薦されたのは1名ということで、委員の皆様のお手元にも推薦書類が届いたことと存じます。それでは、資料1と2について、事務局より説明をお願いいたします。」

事務局 「資料1は、推薦書類一式になります。推薦書は、医療従事者、内科系教授、外科系教授、副院長及び病院長補佐から合計4通提出されております。続いて、資料2をご覧ください。提出された書類につきまして、不備や資格要件について、事務局にて形式的な確認をいたしました。候補者の資格要件確認について、形式的に確認できる項目は記載のとおり問題ございませんでした。」

議長 「資料2に基づいて資格要件については問題ないとの説明がありましたが、よろしいでしょうか。」

各委員（異論なし）

議長 「それでは資格要件に問題なしということで、選考規程に従い、当該候補者を対象に選考を進めたいと思います。」

2. 今後の選考の進め方

議長 「それでは今後の選考の進め方について、事務局より説明をお願いいたします。」

事務局 「資料3をご確認ください。前回の選考においても対象者1名に対してプレゼンテーションを行いましたので、それに倣ったご提案になります。本日、8月29日の第2回候補者選考会議において、まず、議題1で書類選考を実施していただきました。この後、プレゼンテーションのテーマ、評価方法及び聴講対象者を決定していただきます。その後の予定について、第3回を10月上旬に予定しておりましたが、10月中に委員の日程調整ができませんでした。申し訳ございません。そのため、プレゼンテーションの資料提出を10月21日、第3回候補者選考会議を11月上旬とさせていただき、全体的におおよそ1か月後ろ倒しのスケジュールに修正させていただきました。また、第3回は、日程調整が難しい場合、一部の委員にZoomにて参加いただくという形を取らせていただければ幸いです。」

議長 「ただいま事務局より、諸所の事情により10月21日をプレゼンテーション資料の提出を締め切りにさせていただきたいと説明がありました。またそれに伴い、第3回選考会議の開催が約1か月遅れるということになります。11月上旬に第3回選考会議を行いたいというようなスケジュールでございますが、何かご意見があればお伺いしたいと思います。」

各委員（異論なし）

議長 「対象者が1名ですので、プレゼンテーションを実施するかどうかという点についてもご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。」

A委員 「候補者が現職であるので、プレゼンテーションはなくてもいいのかもしれませんが、慣例としては実施してきました。過去に候補者が1名の場合でも実施した例がありましたよね？」

事務局 「はい、そうです。」

A委員 「私はプレゼンテーションはなしでもいいと思いますが、慣例としてはそうだと
いうことです。」

議長 「わかりました。G委員はいかがでしょうか。」

G委員 「プレゼンテーションはなくてもいいのかなと思います。私は慣例などを知ら
ないのですが、現病院長は様々な場面で発信しているので、あえてプレゼンテーショ
ンを聴かなくてもわかるような気がしています。」

議長 「はい。ではE委員、お願いいたします。」

E委員 「内部の者であるから言えることですが、病院長として約2年半の実績がある
ので、我々はよくわかっています。ですから、外部の委員の方々が考えていただき、書
類だけで良いのか、プレゼンテーションを聴いたほうが満足に評価できるのか、決めて
いただけたらいいのではないかと思います。我々としては、方針は常に発信されてい
てよくわかっているので、外部の方々が決めていただくのがいいと思います。」

F委員 「私は門外漢ではありますが、推薦書やご本人の経歴など、いただいた資料を
見る限りプレゼンテーションを実施する必要があるのかな、ここで何か覆る理由があ
るのかな、というのが正直な感想です。誰しもが認める方が立候補されるというこ
とであれば、プレゼンテーションをする必要はないと思います。」

D委員 「私は病院の内部の者ではないですが、候補者のことは存じ上げておりますし、
病院長としての実績も踏まえた所信表明を出していただいているので、改めてプレゼ
ンテーションで何かを確認したいという思いはありませんので、必要ないと思ってい
ます。」

議長 「ではB委員、いかがでしょうか。」

B委員 「資料4の5番に記載されているプレゼンテーション等の聴講者が、候補者選
考規程第8条第1項にある候補者推薦が可能な教職員とあり、第8条第1項を確認し
ましたが、全員が内部の教職員の方ですよね。ですので、どなたかが発言されたとお
り、聴講者は平素から現職の病院長の方針や意向を暴露する機会がある方々であると思
い

ますので、プレゼンテーションが絶対必須であるとは思いません。」

議長 「プレゼンテーションは絶対必要ではないとお考えであるという認識でよろしいでしょうか。」

B委員 「絶対必要ではない、ということです。」

議長 「前回の選考の際に所信表明されたこと、2年間の実績等を踏まえつつこれから先のこともある程度書類に書かれているので、そのうえでプレゼンテーションをしてもらったとして、その点をどのようにされるのかということをご意見を求める、というのなかなか難しい状況になるのではと思っています。プレゼンテーションではなく、A委員やE委員が作成されたプレゼンテーションの評価項目に関して、丁寧に記載していただいて我々が確認するというのいいのではないかと思います。いかがでしょうか。」

各委員 （異論なし）

議長 「ではプレゼンテーションは絶対必要ではなく、現状から考えて候補者の所信表明等を踏まえると、あとは書類選考にて、資料5におけるプレゼンテーションに関する4つの評価項目に関して記載してもらおうということよろしいでしょうか。」

A委員 「大学病院改革プラン自体も候補者のリーダーシップのもとに書かれたものであるので、あえて書いてもらう必要もないと思います。」

E委員 「この評価項目が、候補者が主導で今後5年間かけて改革していこうと考えている内容になります。」

A委員 「他の候補が出た場合に確認したい項目でしたが、候補者であれば、同じ内容になりますよね。」

E委員 「今年の6月に病院長名で文科省に出している資料です。」

議長 「となると、このプレゼンテーションの評価項目に関して、どうでしょうか。」

D委員 「ここに書いている評価項目に関し候補者が書いても、改革プランの方向に沿ったものを書かれると思うので、それを評価しないという選択肢とはならないかと思

ます。あえて書いてもらう必要はないと思います。」

F 委員 「私もこれを丁寧に書くだけであれば必要ないと思います。」

E 委員 「対抗の候補者が複数出れば資料 5 の比較表を用いて比較したいと思いましたが、今回は 1 名だけでしたので、この比較表もあまり意味をなさないですね。」

議長 「B 委員、資料 5 と参考資料 3（大学病院改革プラン）の活用に関して、ご意見いかがでしょうか。」

B 委員 「大学病院改革プランは毎年の自己点検と、2027 年・2029 年に文科省による進捗確認がありますので、これをもってこの候補者のマニフェストとして評価することに異論はありません。」

議長 「ありがとうございました。その他にご意見はないでしょうか。」

A 委員 「我々は内部ですので、異論はありません。」

E 委員 「あとは事務局が報告書の素案を作成し、その内容をメール審議したほうが、皆様お忙しい中で集まるのは大変ですし、そうすると後ろ倒しになったスケジュールも前にできるのではないのでしょうか。」

D 委員 「早く次の病院長を内外に公表して、これからこうしていくという所信も含めて公表したほうが、次年度以降の取り組みに早く進んでいこうという病院内の雰囲気になると思います。」

B 委員 「確認してもいいですか。資料 5 の評価表はお使いになる予定ですか。」

E 委員 「候補者が複数名出た場合の比較表として作成したのですが、今回は 1 名しか出ませんでしたので、使う必要はないのではないかと考えています。」

B 委員 「確認させていただいたままで。異論はありません。」

議長 「それでは、書類選考で推薦のあった 1 名を候補者とし、プレゼンテーションは不要であり、推薦書や所信表明書をもとに報告書を作成するという方向で意見が集約されているという風に考えます。そうであれば、事務局にて報告書を作成していただき、

委員にて内容を確認のうえ異議等なければその方向で進めるということにしたいと思
います。また、先ほどスケジュールの提案等がございましたが、第3回の選考会議の開
催は現時点においては不要ということになりますので、報告書の確認を踏まえて実施し、
その後学長に提出し、法人の方で理事長に申出されるという方向性になるかと思いま
すが、よろしいでしょうか。」

各委員 （異論なし）

議長 「それでは、すべての委員がその方向性でということになりました。事務局から
最終的に念押し確認はありますか。」

事務局 「先ほど委員の方々がおっしゃったように、参考資料3や所信表明等をベース
に参考資料5の報告書を事務局にて作成いたします。作成にあたっては多少お時間をい
ただきますが、早々に作成し委員の皆様にもメールにてお送りさせていただきます。ご確
認いただき修正などのご指示がありましたら、そちらを踏まえて最終審議いただければ
と思います。その報告書をもとに、学長や法人へ説明したいと思います。ですので、次
はメール審議という形にさせていただきたいと思います。」

議長 「それでは、今の事務局の説明のとおりに進めていくということでよろしいでし
ょうか。」

各委員 （異論なし）

議長 「それでは、本日の選考会議はこれにて終了させていただきます。ありがとうご
ございました。」